



中世女流日記文学および毛利家文書の研究

総合教育センター

准教授 五條 小枝子（ごじょう さえこ）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 2218号室
Tel: 082-251-9973
E-mail: gojyo@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 日本古典文学 特に 中世文学

キーワード： 女房日記 仏教思想 執筆意図 時代状況

● 現在の研究について

1. 中世女流日記文学の研究

日本の中世における日記文学について興味をもちています。日記文学は、フィクションとは異なり、作者の実人生の重みを伴っているものです。作者が己の人生をどのように描き出しているのか、そして、それはどのような真情に突き動かされてのものなのか、それを知りたいというのが研究の出発点でした。

○ 南北朝の動乱期に、後醍醐天皇方から謀叛の疑いをかけられ斬罪に処せられた西園寺公宗の正嫡、日野名子が綴った日記『竹むきが記』について研究しています。主な観点は、

① 作品の叙述・記事の構成と同時代の他史料とを比較検討することにより作者の執筆動機・意図を探ること

② 作者の辿り着いた宗教的境地について、典拠したと思われる先行作品や仏教経典・禅僧の語録などを参考にしながら考究すること

です。

○ これまでの研究成果は、『竹むきが記 研究』（笠間書院、2004年）にまとめています。

○ 現在は、『竹むきが記』作者の生家である日野家の人々の当時の政治状況の中での動向を解明したいと考え、調査・研究を進めています。

文学と歴史学との間に位置するといえる日記文学に限りない魅力を感じています。

2. 毛利家文書の研究

現存する膨大な量の文書類から、中世期の毛利家の人間関係や毛利家の人々の人となりについて探求しています。すでに、1) 毛利元就と彼の継室中の丸との交流、2) 元就嫡男隆元正嫡尾崎局の人物像についてまとめたところですが、さらに対象を拡げてゆく予定です。

● 今後進めていきたい研究について

それぞれの分野において、研究対象を時代的広がりの中で捉えるべく、その作品の時代背景・作者の環境等の考証を進め、それを基にして考究を深化させてゆきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

専門分野に関する講座などの機会に、史料を読み解くおもしろさ、何百年も前に生きた人々の思いを知る楽しさを伝えられたらと思います。

● これまでの連携実績

・「元就をめぐる女性」

（吉田町歴史民俗資料館公開講座）

・「毛利家文書を読み解く」

（広島市ひと・まちネットワーク連携講座）

・「女性の側から見た日本史～南北朝の動乱に翻弄された日野名子の生～」

（広島市八幡公民館）

他